しえん便り

25年6月
発行

授業の話①

和歌山県立みくまの支援学校　支援部

私の昨年の「特殊音節指導」の実践（小学部　高学年）は、MIM（特殊音節の動作化など）を使っていたものの･･･。　昨年のコーデイネーター研修で学んだ「特殊音節の指導」は、目から鱗でした。（私の目からは、よく落ちます。）　早速、今年度は、子ども達一人ひとり、清音の５０音表（段ごとに、色分け）を作り、もう一度、長音から丁寧にやり直しました。

動作化では、伸びる音の意識はしやすいのですが、それだけでは、どの音で伸びるのかが、不確かになりがちだったように思います。動作化も、もちろんしますが、段の色分けの５０音表で、同じ色の段の文字を伸ばしてみると、「たあ～」「かあ～」「しい～」「ちい～」「ふう～」「くう～」･･･と、子ども達にも、伸びる音がよくわかり、楽しそうでした。わかって楽しくなると、ことばをたくさん読みはじめます。

これに、**え段は「い」で伸びる、お段は「う」で伸びる、また、例外もあること**を学ぶ（え段では、「おねえさん」、お段では、「とおくのおおかみ･･･」）と、長音は完璧！？

次は、拗音、そして、拗長音の話をしたいと思います。また、「特殊音節の指導」だけに限らず、自立活動の先生に、授業をのぞいてもらうと、参考になるアドバイスがもらえます！

みんなで知恵を出し合って、良い授業を作って行きたいですね。　（有本）

お箸の話

ある程度の年齢になったら、子どもにお箸を使ってほしい！という気持ちが芽生えるのは自然なこと。しかし、ただ練習すればできるようになる、というわけではありません。お箸の練習に入る準備が整っているか、チェックしてみましょう！

～お箸が上手に使えるようになるための条件～

【その１】３指持ちができているか？

→親指・人指し指・中指の３本でスプーンを支えて、鉛筆のように持てることが必要です。

【その２】手指の分離運動ができているか？

→親指・人指し指・中指の３本と薬指・小指の２本を分けて使えるか？たとえば、薬指と小指で消しゴムを落とさずに持ったまま、物をつまんだり、はなしたりできるか？をみてみましょう。

【その３】３指持ちのときに、適度に手首が起こせているか？

→スプーンや鉛筆を使うときに、過度に手首が反ったり、反対に過度に手首が曲がったりしている子がいます。これは、手首を固めて支えている状態です。これでは指の細かい動きが出せません。指先だけでなく、手首の動きも大切なのです。

※こうした技術の習得は食事場面だけから得るのではなく、遊びの中で楽しみながら少しずつ体が学んでいくものです。しっかりと体や手を動かして遊ぶ機会を多くつくることも大切にしたいですね。　（中瀬）